



SON-DAY, JUNE 28th 2026 WORSHIP SERVICE No.1171

✠ 単立キリスト教会 マラナサ・グレイス・フェローシップ Maranatha Grace Fellowship [MGF] Since Jan. 18, 2004

教会所在地：〒380-0802 長野市上松2丁目7-20 ☎: 026-219-2388 牧仕：Kaz、菊地 一徳（かずなり）

☆ <https://mgfchrist.com> ☆ www.facebook.com/mgf.nagano.japan ✉ jesus-mail@mgfchrist.com

MGF は、☑神第一主義、☑キリスト中心主義、☑聖霊主導主義の教会

礼拝黙想 Meditating on Worship

「高慢とは、自己を神と見なして崇める偶像礼拝である。神と競い合い、中心の座から神を退けて自己を据えるというその性質ゆえに、高慢は、古来多くのキリスト教思想家たちによって『諸悪の根源』であり、あらゆる罪の本質的な要素であると見なされてきた。」（ロバート・レイバーン）

A 偶像礼拝と高慢は、聖書全体を通して繰り返し登場するテーマであり、しばしば深刻な結果を招く重大な罪として描かれています。これら二つの罪は密接に関連しています。なぜなら、偶像礼拝は多くの場合、自分自身や他の存在を神よりも高く置こうとする高慢な心から生じるからです。聖書には、これらの罪がもたらす霊的および現実的な報いを示す数多くの記述や教えがあります。

偶像礼拝

偶像や偽りの神々を拝む偶像礼拝は、聖書において明確に禁じられています。「あなたには、わたし以外に、ほかの神があつてはならない」（出エジプト記 20 章 3 節）という第一の戒めは、唯一まことの神のみを礼拝するという原則を定めています。偶像礼拝は「霊的な姦淫」、すなわち神とその民との間の契約関係に対する裏切りとして描かれています。

偶像礼拝が招く結果は、イスラエルの歴史の中に鮮明に示されています。預言者たちによる度重なる警告にもかかわらず、イスラエルの民はしばしば周辺諸国の神々へと心を向けました。その結果、軍事的な敗北、捕囚、そして滅亡といった神の裁きを受けることになりました。例えば、北イスラエル王国は、執拗な偶像礼拝が原因で紀元前 722 年にアッシリアによって滅ぼされました（列王記第二 17 章 7-23 節）。同様に、南ユダ王国もまた、偶像礼拝の慣行の結果として紀元前 586 年にバビロンへ捕囚の身となりました（歴代誌第二 36 章 14-20 節）。

預言者たちは、偶像礼拝の無益さと危険性について頻繁に警告を発しました。イザヤは、「偶像を造る者はみな、空しい（無に等しい）。彼らが慕うものは何の役にも立たな

い」と宣言しました（イザヤ書 44 章 9 節）。エレミヤは偶像礼拝者の霊的な盲目を嘆き、「彼らは空しいもの（無益な偶像）に従って行き、空しいもの（自分自身も無益なもの）となってしまうとは」と述べています（エレミヤ書 2 章 5 節）。これらの聖句は、偶像礼拝に伴う霊的な堕落と空虚さを浮き彫りにしています。

高慢

自分の能力や正しさを過信することである「高慢」もまた、神の怒りを招く罪の一つです。聖書は一貫して高慢を戒め、謙遜を美德として強調しています。箴言 16 章 18 節には、「高慢は滅びに先立ち、高ぶる心は倒れに先立つ」と記されています。この格言は、高慢な振る舞いの後に避けられない破滅が訪れることを端的に表しています。

ダニエル書に記されたネブカドネツアル王の物語は、高慢が招く結果を示す痛烈な例となっています。バビロンの強大な支配者ネブカドネツアルは、高慢になり、自らの成功を自分の力によるものだと考えました。その結果、神は彼を戒めるために、彼から理性を奪い、神の主権を認めるようになるまで獣のように生きることを余儀なくさせました（ダニエル書 4 章 28-37 節）。

高慢さは新約聖書にも見られます。イエスは、パリサイ人たちの自己義認や偽善を度々戒めました。「パリサイ人と取税人のたとえ」の中で、イエスは高慢になって自分を高くすることの危険性を説き、「だれでも自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるのです」と結論づけました（ルカの福音書 14 章 14 節）。

偶像礼拝と高慢さの関連性

偶像礼拝と高慢さはしばしば密接に関連し

ています。なぜなら、高慢さは、自らの欲望や野心を反映した偶像を人が作り出す原因となり得るからです。使徒パウロはこの関連性についてローマ人への手紙 1 章 21-23 節で触れ、人間が高慢にも神を拒絶することがいかにして偶像礼拝につながるかを次のように述べています。「彼らは神を知っていながら、神を神としてあがめず、感謝もせず、かえってその思いはむなしくなり、その鈍い心は暗くなったのです。彼らは、自分たちは知者であると主張しながら愚かになり、朽ちない神の栄光を、朽ちる人間や、鳥、獣、這うものに似たかたちと替えてしまいました」。

偶像礼拝と高慢さに関する聖書の教えは、これらの罪に対して常に警戒を怠らないよう警告するものです。それらの教えは、謙遜であることと神のみを礼拝することの重要性を信者に思い起こさせると同時に、神から離れることによって生じる霊的・道徳的な堕落を強調しています。（Bible Hub より）

歪められた礼拝（ビル・クレム）

ある神学校で、8 時間×3 日間の集中講座を教えるよう依頼されました。最初の 1 時間で私が提示しようとしたのは、「私たちは皆、偶像礼拝者である」という考えでした。私はまず、「皆さんが行う牧会カウンセリングの 100 パーセントは、偶像を特定し、それに向き合うことに関わるものです」と切り出しました。すると即座に反論が返ってきました。「偶像礼拝なんて原始的な考えだ」「人々が抱えているのは偶像ではなく、何らかの問題（課題）なのだ」と。人間の心について、また神がご自身の民に何を求めているかについて聖書が語っていることを無視し続ける限り、私たちは同じような異議を唱え続けることになるでしょう。

TRUE WORSHIPPERS, HOT GOSPELLERS, JESUS FREAKS

To Know Christ And To Make Him Known ☑ Love God And Love People ☑ Jesus Is Coming

聖書はこう言っています。「人の心は、何よりもねじ曲がっている。それは癒やしがたい。だれが、それを知り尽くすことができるだろうか」(エレミヤ書 17 章 9 節)。

偶像礼拝の根底にあるのは「高慢」です。イザヤは、ルシファーが自ら礼拝されることを望んだために礼拝することをやめ、反逆に至った様子を次のように描写しています。

「おまえは心の中で言った。『私は天に上ろう。神の星々のはるか上に私の王座を上げ、北の果てにある会合の山で座に着こう。密雲の頂に上り、いと高き方のようになるう。』」(イザヤ書 14 章 13-14 節)。

ヤコブの手紙において、高慢は神が敵対される心の状態として描かれています。神に近づくのにふさわしい態度は「へりくだり」です。

「それとも、聖書は意味もなく語っていると思いますか。『神は、私たちのうちに住ませた御霊を、ねたむほどに慕っておられる。神は、さらに豊かな恵みを与えてくださる。』と。それで、こう言われています。『神は高ぶる者に敵対し、へりくだった者には恵みを与える。』ですから、神に従い、悪魔に対抗しなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ去ります。・・・主の御前でへりくだりなさい。そうすれば、主があなたがたを高く上げてくださいます。」(ヤコブの手紙 4 章 5-7、10 節)

高慢が神に忌み嫌われるのは、まさにそれが神の栄光と至高性を奪うものだからです。高慢は反逆ですが、単に神の権威に対する反逆というだけではありません。高慢とは、神を中心とするのではなく、自分を中心とすることなのです。高慢な心は自分自身を中心と見なし、神を、その高慢な心の宇宙の軌道上に自らの居場所を見つけなければならぬ存在として捉えるのです。自らをクリスチャンと称する人で、そのような自己中心的世界観を認める人はほとんどいないでしょう。しかし、私のところには、次のような疑問や意見を抱く人々が絶えず訪れます。

「神が愛に満ちているなら、どうして私にこんな悪いことが起きるのを許すのか？」
「悪いことが起きるのを許すような神など信じられない」

「聖書に何と書いてあるかはどうでもいい。私はこうしたいんだ」

「クリスチャンの夫を求めて祈ってきたけれど、もし神が私にクリスチャンと結婚してほしかったのなら、神がそうなるようにしてくれたはずだ」

「もし神が同性愛をよしとしないなら、なぜ私をこのような人間に造ったのか？」

「もし神が私に結婚生活を続けてほしかったのなら、浮気した配偶者にそう言うべきだったはずだ」

こうした異議の内容そのものだけでなく、それを唱える人々の根底にある核心に目を向けてみてください。異議を唱える人々は、自分たちには権利があり、神はその権利の枠内で行動する責任があると考えています。彼らの考えでは、神は、彼らにとって理解できないことを行いながら愛を示すことなどできませんし、不都合なことや「ポリティカル・コレクトネス(政治的妥当性)」に反することを求めることもできません。彼らは、自分を傷つけた相手を傷つける「聖書的な」権利があるにもかかわらず、神が彼らに「恵み」を選び、相手を許すよう求める権利などない、と考えているのです。

ここで、いくつか指摘しておくべき点があります。第一に、神がその行動について、あるいは少なくともその行動の理由について、私たちに対して説明責任を負っているという考え方は、神との本来あるべき関係を歪めてしまいます。せいぜい神を「対等な相手」とみなす程度のものであり、それゆえに神は私たちに納得のいく説明をすべきだということになってしまいます。神の行いや神が許している事柄に対して怒りを抱いている人々と話すと、よく「ただ『なぜ』なのかを知りたいだけなんです」という言葉を耳にします。私は彼らの中の何人かにこう尋ねたことがあります。「本当にそうですか？ もし神の説明があなたを納得させるものではなく、しかも、あなたを怒らせたようなことをしなくても、あるいは

許さなくても、神は同じ目的を達成できたはずだと確信させられるような説明だったとしたら、どうしますか？」その時、彼らはしばしば気づくのです。自分たちが本当に求めているのは単なる「理由」ではなく、自分たちが納得でき、かつ神に自分たちへの説明責任を負わせるような「理由」なのだ、ということに。

第二に、「被造物と創造主」という概念は、神に「切り札」を与えます。神は、ご自身の栄光のために、ご自身の世界、被造物、そして物語を設計する権利を実際に持っておられるのです。それに対抗しようとするものは何であれ、偶像にすぎません。高慢は、私たちを「自己中心性」と「偶像礼拝」との間で身動きが取れない状態に追い込みます。

イエスはすでに、罪の基準を「姦淫」から「情欲を抱く心」へ、「兄弟の殺害」から「怒り」へと引き上げられました。それなのに、私たちはどうしてキリスト教の名の下に、罪や「義」のまがい物を自分たちの生活や共同体にこっそりと持ち込み続けてしまうのでしょうか。それは、私たちが「誰を」あるいは「何を」礼拝しているかということと深く関わっているはずです。自分が中心にあるときには、心地よいものや正しく感じられるもの、あるいは心の慰めや現実逃避の場、気を紛らわせるものや心を惹きつけるものも、それほど悪いことのように思えません。しかし、神が中心にあるとき、すなわち宇宙の神があなたの魂に入っているとき、心の住まいは手狭になり、父と子と聖霊をあがめるものではない事柄のための余地など、もはやどこにもなくなってしまいます。

「高慢は破滅的な罪であり、複雑な性質を持っています。多くの罪は私たちを神から遠ざけるものですが、高慢は神を直接的に攻撃する罪です。それは私たちを神よりも高い位置に置き、神に敵対させるものであり、自らを王座に据えることで神をその座から引きずり下ろそうとするのです。」(ジョエル・ブーク) Ω

<お知らせ Announcement>

★7月26日(日) 午後はムービー・フェローシップを予定しています。

MGF はキリスト狂徒の集まるキリスト狂会

「教会【マラナサ・グレイス・フェローシップ(略称:MGF)】はキリストのからだであり、すべてのものをすべてのもので満たす方が満ちておられるところです」(エペソ1:23)。「あなたがた【MGF】は、キリストにあって満たされているのです。キリストはすべての支配と権威のかしらです」(コロサイ2:10)。